

矢畑地区防災マニュアル (一般住民用)

災害への備え



令和5年5月1日
矢畑自主防災会

はじめに

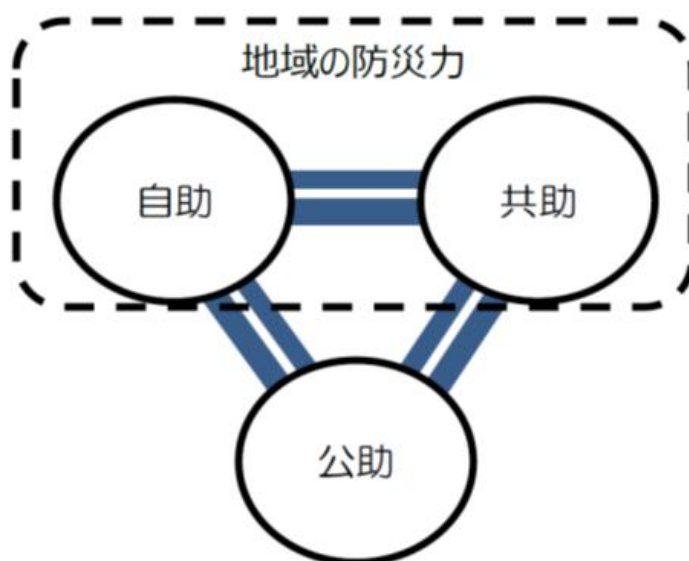
災害はいつなんどきやって来るのかわかりません。

しかし、皆さん一人一人の防災への「備え」と、地域の「きずな」があれば、万一災害が発生した時でもその被害を最小限に食い止めることができます。

そのために、

1. まずは自身と家族の安全を守りましょう・・・自助
これが最優先です。その上で・・・
2. 隣近所・地域で助け合いましょう・・・・・・共助
3. 市や国による援助・・・・・・・・・・・・・・・・公助

※ 大規模災害の際、市や国は簡単には動きません
矢畑自主防災会は防災活動で皆さんのお手伝いをします。



目次

1. もし災害が発生したら・・・・・・・・・・	1
・災害発生時の初動	
1) 風水害のとき・・・・・・・・・・	1
2) 大規模地震のとき・・・・・・・・	2
地震発生時の行動・・・・・・・・	3
3) 火災のとき・・・・・・・・・・	6
4) 津波のとき・・・・・・・・・・	7
2. 災害が落ち着いたら・・・・・・・・・・	8
・災害が落ち着いた後の行動	
・応急手当	
3. 安否確認に協力しましょう・・・・・・・・	10
・被害の確認と報告	
・黄色いハチマキ掲出例	
・一時（いつとき）避難場所の活用	
4. 避難所に避難しましょう・・・・・・・・	13
・避難所の利用・避難所での行動	
・「避難」って何をすればいいの？	
5. 日頃から備えましょう・・・・・・・・	15
・持出品・備蓄品	
6. 火災に備えましょう・・・・・・・・	17
・火災報知器・消火器・感震ブレーカー	
〔参考〕	
・防災情報の収集・・・・・・・・	18
・矢畑地区洪水ハザードマップ・・・・・・・・	19
・地震による矢畑地区危険度・・・・・・・・	20
建物倒壊・火災・道路閉塞・地区内通過	
・津波による矢畑地区危険度・・・・・・・・	24
・液状化による矢畑地区危険度・・・・・・・・	25

1. もし災害が発生したら

災害発生時の初動

1) 風水害のとき



**避難準備は
1日前から!**

1.

災害到達前に準備

どこに避難? **1日前**

大雨・浸水への備え

- ・ 気象情報の入手 (ニュース等)
- ・ 大事な物を安全な場所に移動
- ・ 避難先を決める
⇒ **自宅? 親類? 避難所?**
- ・ 近隣・親類に相談

2.

避難開始

いつ避難? **半日前**

高齢者等避難 ⇒ 警戒レベル3

全員避難 ⇒ 警戒レベル4

- ・ 水害の無い所に避難
- ・ 避難はピークの半日前に
- ・ 迷ったら近隣に相談
- ・ 一人で避難できなければ、近隣に相談
- ・ 隣近所に避難の呼びかけ
- ・ 火元確認・ガスの元栓を閉める
- ・ 電気のブレーカーを切る
- ・ 非常用持ち出し品を持ち、避難

※逃げ遅れたら2階へ避難

避難先

- ◎ 浸水のない親類・ホテル
- ◎ 鶴嶺中 (浸水なし)
- 鶴嶺小 (浸水あり)
- ※ 緊急時 自宅2階
- 近隣マンション2階
- 高台等の高所

3.

災害が落ち着いたら

被害の確認・報告

無事 ⇒ 黄色いハチマキ
一時 (いつとき) 避難

場所で情報交換

救助・救護協力

被害の確認・報告・協力

- ・ 家族の無事を確認・報告
⇒ 無事なら 黄色いハチマキ 掲出
- ・ 落ち着いたら隣近所の 安否確認
- ・ 被災者の 救助・救護 の協力
- ・ 隣近所の被災状況を報告
⇒ 一時避難場所 で情報交換

2) 大規模地震のとき



1.

地震発生



(提供：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議)

自身と家族の身を守る

- ・あわてず、落ち着く
- ・背の高い家具から離れる
- ・壁ぎわが安全
- ・出口を意識

2.

揺れがおさまった
家族は無事？ **2～3分**

火災・津波に備える

- ・家族の無事を確認
⇒無事なら黄色いハチマキ掲出
- ・火元を確認
- ・ガスの元栓を閉める
- ・電気のブレーカーを切る
- ・出口の確保・靴を履く

3.

被害の確認

隣近所は大丈夫？ **3分**

隣近所の安否確認

- ・隣近所の無事・被害を確認
- ・被災者の救助・救護
- ・要支援者への訪問・声かけ
- ・初期消火活動

4.

災害情報入手・報告

一時避難場所 **5～10分**

災害情報入手と報告

- ・災害情報収集（ニュース等）
- ・隣近所の被害を確認・報告
⇒一時避難場所へ参集
- ・被災者の救助・救護（継続）
- ・被害状況を報告⇒対策本部

地震発生時の行動(1)

首相官邸ホームページより抜粋

● 家庭で屋内にいるとき

- ・ 家具の移動や落下物から身を守るため、頭を保護しながら大きな家具から離れ、丈夫な机の下などに隠れる
- ・ あわてて外に飛び出さない
- ・ 料理や暖房などで火を使っている場合、その場で火を消せるときは火の始末、火元から離れているときは無理に火を消しに行かない
- ・ 扉を開けて避難路を確保する



● 人が大勢いる施設（大規模店舗などの集客施設）にいるとき

- ・ あわてずに施設の係員や従業員などの指示に従う
- ・ 従業員などから指示がない場合は、その場で頭を保護し、揺れに備えて安全な姿勢をとる
- ・ 吊り下がっている照明などの下から退避する
- ・ あわてて出口や階段に殺到しない

地震発生時の行動(2)

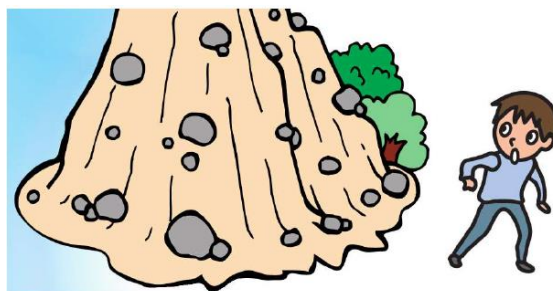
首相官邸ホームページより抜粋

- エレベーターに乗っているとき
 - ・ 最寄りの階で停止させて、すぐに降りる



- 屋外にいるとき
 - ・ ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒などに注意し、それらのそばから離れる
 - ・ ビルの壁、看板や割れた窓ガラスなどの落下に注意して、建物から離れる

- 山やがけ付近にいるとき
 - ・ 落石やがけ崩れに注意し、できるだけその場から離れる



- 鉄道・バスに乗っているとき
 - ・ つり革や手すりにしっかりつかまる



地震発生時の行動(3)

首相官邸ホームページより抜粋

● 自動車運転中

- ・あわてて急ハンドルや急ブレーキをかけずに緩やかに速度を落とす
- ・ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促し、道路の左側に停止する



(イラスト: 気象庁)



● 大都市で地震に遭遇した時

まずは、身の安全を確保した後、むやみに移動を開始しないことが基本！安全な場所にとどまることを考えましょう。

- ・道路では余震で頭上から物が落下してきたり、道中に火災が起こっていたりするなど、数多くの危険が予想されますので、安全な場所からはむやみに移動しないようにしましょう。
- ・駅周辺等大混雑している場所では、人が将棋倒しになる集団転倒が起きやすくなるので、駅周辺には近づかないようにしましょう。
- ・発生3日程度は火災の発生や救助・救急活動優先のため、混乱状態が続くので、まず身を守るために安全な場所にとどまることを考えましょう。

3) 火災のとき



1.

火災発生

- ① 大声で「火事だー」と周囲に知らせる
- ② 消防署へ通報する

2.

火元が小さいうち
初期消火

消火器・消火栓で消火

- ・火元が小さいうちに **消火器** で消火
- ・可能なら **屋外消火栓** で消火
- ・人手があればバケツリレーも

3.

危険を感じたら
声かけ・避難

火が身長の高さまで達して
いたら声かけし、逃げる

- ・火が身長の高さまで達していたらもう消火作業は危険

⇒ 逃げる

一時避難場所へ避難

4.

延焼火災の危険
を感じたら
声かけ・避難

延焼火災の危険を感じたら
声かけし、逃げる

- ・地域一帯の火災が広がっていると感じたら避難（風上へ）

⇒ 逃げる

広域避難場所へ避難

- ・ 浜之郷小学校、養護学校
- ・ 鶴が台小中学校
- ・ 円蔵小中学校、鶴嶺高校
- ・ 中央公園、市役所、体育館

大規模火災では
火炎から100m以上
離れましょう

4) 津波のとき

1.

地震の揺れが
おさまったら

2.

大津波警報
発令

3.

直ちに 避難

- ・ 海や川から離れる
- ・ 高所に避難する
- ・ 隣近所に避難声かけ
- ・ 原則徒歩で避難
- ・ 避難は警報解除まで



- ① 災害情報の入手
- ② 大津波警報が発令されて
いないか？

浸水の危険があれば避難

- ・ 自宅が浸水の危険があるか
事前に 津波ハザードマップ で
危険を知っておく

避難先

- ・ 浸水の無い親類・ホテル
- ・ 津波一時退避場所 (鶴嶺中、
鶴嶺小、浜之郷小、他)
- ・ 避難所 (鶴嶺中、鶴嶺小)

※緊急時 ⇒ 高所へ避難

- ・ 自宅の2階、近隣マンション
の2階、高台等の高所

2. 災害が落ち着いたら 災害が落ち着いた後の行動

1.

自身の周りは安全か？

自身の周りの安全を確認

- ・ 周囲に倒壊・火災・浸水等の危険はないか？
- ・ 家族は無事か？

2.

近隣は安全か？

危険ならすぐ避難！

被災したら近隣に助けを求める

無事なら黄色いハチマキ掲出！

自身と家族の安全を最優先して行動下さい。支障が無い限りにおいて助け合いにご協力願います。

近隣の安全を確認

- ・ 近隣に倒壊・火災・浸水等の危険はないか？
- ・ 近隣の人は無事か？

3.

被災状況を報告

危険ならすぐ避難！

被災者がいたら近隣に声かけし救助

被災状況を本部に連絡 ⇒ 組長

⇒ 防災リーダー ⇒ 対策本部

- ・ 自宅の状況（被災者・建物）
- ・ 近隣の状況（被災者・建物）

- 落ち着いたら…
- ・ 一時（いつとぎ）避難場所に参集
 - ・ 安否確認結果を報告
 - ・ 電話・メールもOK

無事なら黄色いハチマキ掲出！

被災者がいたら近隣に声かけし救助

応急手当

茅ヶ崎・寒川防災タウンページ（2020年5月版）より抜粋

災害時に想定される代表的なケガは、切り傷などによる出血、骨折、やけどです。最低限の応急手当は覚えておきましょう。



救急救命講習会風景



茅ヶ崎市ホームページより抜粋

出血している場合

- 1 感染の危険性を防ぐためビニール袋や手袋をする。

【手袋の替わりになるもの】

- ・ビニール袋
- ・ラップ



- 2 止血する。

【直接圧迫止血法】

傷口を清潔なガーゼやハンカチで強く押さえる。

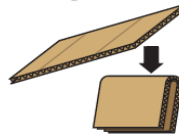


骨折している場合

- 1 骨折した部分の外側・内側からあてるための副木を用意する。
(骨折部の両側の関節より長いもの)

【副木として使えるもの】

- ・新聞紙
- ・雑誌
- ・段ボール
- ・傘 など



- 2 患部上下の関節を固定する。

【関節を固定するときに見えるもの】

- ・ハンカチ・タオル・ネクタイ



タオルなど（柔らかいもの）

- 3 腕を吊る。

【腕を吊るときに見えるもの】

- ・レジ袋・スカーフ・ベルト



やけどの場合

- 1 受傷後はすぐに水道水などの清潔な流水で痛みがなくなるまで（10～30分程度）冷却する。



- 2 衣類の上からのやけどは、患部に接している衣類は脱がせないようにし、まずは衣類を着たまま流水で冷す。

- 3 冷却後、清潔なガーゼやタオルなどをあてて救護所へ。タオルの上から間接的に保冷剤や氷を入れたビニール袋で冷すと、痛みを軽減することができます。

注意)

水ぶくれは、やけどの傷口を保護する役割があるため、破れないように気を付ける。患部を氷水に浸したり、氷で直接冷やすと、凍傷を起こすことがあるので注意する。



3. 安否確認に協力しましょう 被害の確認と報告

災害が落ち着いたら、安否確認・被害状況の確認と報告を急ぎましょう！

- ・被災者の命を救うため、早く発見することが必要です。そのため、自身と家族が無事であることを黄色いハチマキで玄関前に示しましょう。
- ・建物や道路の被害を近隣に知らせることで二次災害を防止しましょう。

1.

(各世帯) 自身と家族が無事ならば

自宅の玄関先に黄色いハチマキを掲出

- ・自世帯の無事を周囲に伝え安否確認の迅速化に協力

2.

(組長) 組内巡回にて安否確認

安否確認表で安否を記録

- ・安否確認表で組内の全世帯の安否確認を記録
- ・黄色いハチマキは無事のしるし
- ・要支援者がいれば最優先で確認

3.

(組長) 安否確認結果を報告

安否確認結果を報告

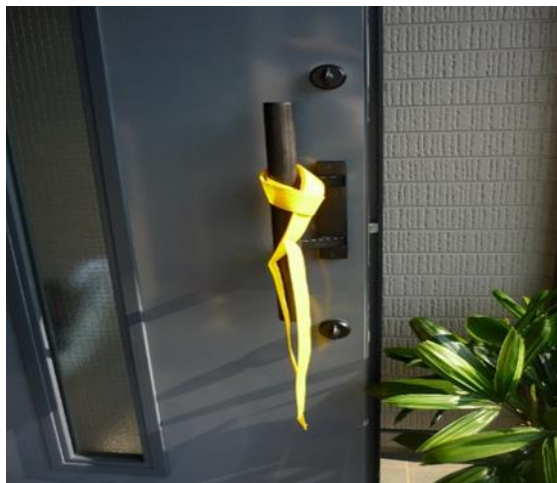
- ・一時 (いつとき) 避難場所に参集
- ・安否確認結果を報告
- ・電話・メールもOK

- ・一時 (いつとき) 避難場所へ行き防災リーダーへ報告⇒本部へ
- ・または本部へ直接連絡

黄色いハチマキ掲出例

黄色いハチマキで家族の無事を近隣に知らせる

ドアの取手に取り付け



郵便受けに取り付け



自宅の塀に取り付け



自宅の立木に取り付け

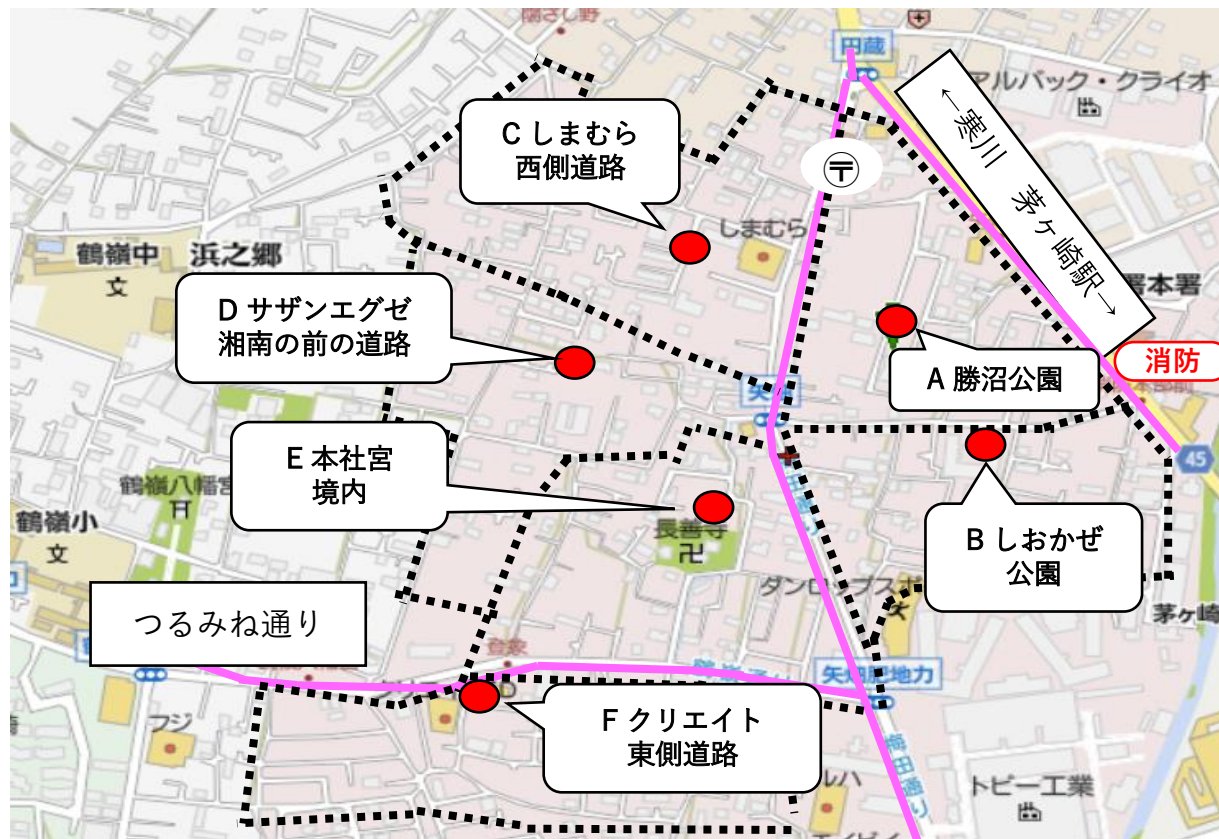


「黄色いハチマキ」をお持ちでない世帯は、各組長または各班長へその旨お伝え下さい。

一時（いつとき）避難場所の活用

- ・「一時（いつとき）避難場所」とは、地域住民が日頃から馴染みのある身近な集合場所で、自治会の班を単位として決められた場所です。
- ・災害が発生して落ち着いた後に、地域住民が情報交換のために一時的にその場所に集まり、避難行動要支援者や隣り近所等の安否確認を迅速に実施することを目的としています。
- ・矢畑地区では、一時避難場所はつぎのように班ごとに決められています。

A班	勝沼公園
B班	レクセルガーデンのしおかぜ公園
C班	しまむら西側道路
D班	サザンエグゼ湘南の前の道路
E班	本社宮境内
F班	クリエイト東側道路



4. 避難所へ避難しましょう

避難所の利用・避難所での行動

1) 避難所とはつぎのような場所です

- ・災害の危険から一時的に避難する場所
- ・自宅が被災したため当面代わりに居住する場所

2) 次の場合は避難所に避難しましょう

①自宅が危険になりそうな場合（台風等）

②自宅が被災し居住できなくなった（地震等）

- ・矢畑地区の避難所は主に鶴嶺中学校と鶴嶺小学校です。
- ・避難所は平常時から場所を知っておきましょう。
- ・避難所ではまず受付で氏名・住所を登録します。
- ・避難所のルールを守り、決められた場所に待機します。
- ・可能ならば、避難所運営活動に協力しましょう。

1.

(平常時) 避難所の場所を知る

平常時からいざという時に避難する避難所を決め、場所を知っておく

2.

(災害時) 避難はためらわずに!

①台風上陸の半日前

- ・台風情報に注意

②地震の際は地震が落ち着いてから

- ・避難所開設情報に注意

3.

避難所のルールを知り守り協力

避難所のルールを知り守る避難所運営活動に協力する

「避難」って何をすればいいの？

茅ヶ崎市ホームページより抜粋



小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません。
「避難」とは「難」を「避」けること。
下の4つの行動があります。



行政が指定した避難場所への立退き避難

自ら携行するもの
・マスク
・消毒液
・体温計
・スリッパ 等

小・中学校
公民館

安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

親戚・知人宅

普段から
どう行動するか
決めておき
ましょう

安全なホテル・旅館への立退き避難

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

ホテル
旅館

屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを確認する必要があります。

■■■■ 想定最大浸水深

※土砂災害の危険がある区域では立ち退き避難が原則です。

ここなら安全！

「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない (入っていると…)

流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります

地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります

② 浸水深より居室は高い

3・4階	5m~10m未満 (0階床上部水~4階軒下浸水)
2階	3m~5m未満 (2階床上~1階下浸水)
1階	0.5m~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分 (十分じゃないと…)

水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります

※①家屋倒壊等反乱想定区域や③水が引くまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住まいの市町村へお問い合わせください。

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないように周囲の状況等を十分に確認して下さい。

5. 日頃から備えましょう(1)

持出品・備蓄品

茅ヶ崎・寒川防災タウンページ（2020年5月版）より抜粋

避難の際に持ち出し、避難場所で使用するもの（非常持出品）

- 近くに危険が迫っている
- 家が倒壊しそう
- 避難勧告や指示が出た



避難

すぐに持ち出せる場所に
置いておこう



1次持出品

①身につけるもの

- ヘルメット・防災ずきん
- 手袋（軍手）
- 厚底の靴
- マスク
- 上着

②リュックに入れて持ち出すもの

- | | | |
|--------------------------------|---|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 飲料水 | <input type="checkbox"/> 携行食（ビスケット、缶詰など） | <input type="checkbox"/> 粉ミルク・離乳食 |
| <input type="checkbox"/> タオル | <input type="checkbox"/> 日常服用している薬 | <input type="checkbox"/> 救急医療品 |
| <input type="checkbox"/> 生理用品 | <input type="checkbox"/> 健康保険証・預金通帳（コピー可） | <input type="checkbox"/> 小銭・現金 |
| <input type="checkbox"/> ライター | <input type="checkbox"/> ウェットティッシュ・ティッシュ | <input type="checkbox"/> ゴミ袋・ポリ袋 |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> 携帯電話（充電器、モバイルバッテリーも） | <input type="checkbox"/> 携帯カイロ |
| <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> 携帯レインコート | <input type="checkbox"/> ナイフ・缶切り |
| <input type="checkbox"/> 下着・靴下 | <input type="checkbox"/> オムツ | <input type="checkbox"/> 印鑑 |
| <input type="checkbox"/> 電池 | <input type="checkbox"/> ロープ | <input type="checkbox"/> 入れ歯・眼鏡 |



自宅での被災生活に必要なもの・避難所で役立つもの

飲料水や食料は、最低3日間分（できれば7日分）の用意をしましょう。

2次持出品

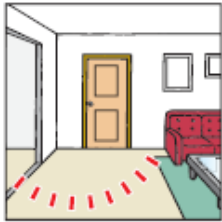
- | | | |
|---|---------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 飲料水（1人1日3ℓ×家族の数） | <input type="checkbox"/> 食料 | <input type="checkbox"/> 給水用ポリタンク |
| <input type="checkbox"/> 簡易トイレ（携帯トイレ） | <input type="checkbox"/> 新聞紙 | <input type="checkbox"/> トイレットペーパー |
| <input type="checkbox"/> カセットコンロ（燃料も） | <input type="checkbox"/> 寝袋・衣類 | <input type="checkbox"/> 石鹸・シャンプー |
| <input type="checkbox"/> おしり拭き・オムツ | <input type="checkbox"/> 食品用ラップ | <input type="checkbox"/> 簡易食器（紙皿など） |
| <input type="checkbox"/> アルミホイル | <input type="checkbox"/> バール | <input type="checkbox"/> ブルーシート |
| <input type="checkbox"/> シャベル・つるはし | <input type="checkbox"/> 脚立 | <input type="checkbox"/> その他 |

- 食料は普段食べている日持ちのするものを多めに用意し、補充しながら消費することで、無理なく備えられます。
- 上記以外でも、各ご家庭で必要と思うものを備えておきましょう。

5. 日頃から備えましょう(2)

家内安全対策

家の中の安全対策



- 背の高い家具がない安全なスペースを確保する



- 出入り口や通路にはものを置かない



- 家の耐震化をする



- 寝室や子ども・高齢者がいる部屋には、倒れそうな家具を置かない



- 家具の転倒や落下を防止する対策を講じる



- 窓ガラスに飛散防止フィルムを貼る

家族で話し合っておこう！

- 災害時の家族との連絡方法の検討・確認
- 周辺地域の環境から予想される災害の確認とその備え
- 避難場所・避難ルートの検討（実際に歩いて状況を確認する）
- 各市町村が発行するハザードマップ等の確認
- 地域の訓練や講習会への参加

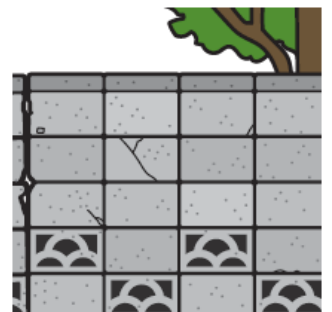


家の周りの安全対策

地震が発生した際は、以下の危険箇所に近づかない。

- ・ブロック塀や石壁
- ・崖等の近く
- ・海岸や河川、水路のそば

また、自宅のブロック塀についても、地震発生時に倒れることのないよう、安全確認をしておきましょう。



6. 火災に備えましょう

火災報知器・消火器・感震ブレーカー

1) 火災報知器の設置・維持管理
 ・すべての住宅に火災報知器の設置、維持管理が義務付けられています。



2) 消火器を設置しましょう
 ・火災が発生した場合、すぐに消火できるように消火器を設置しましょう。

感震ブレーカー



押し下げ型 引き下げ型

**3) 感震ブレーカーを設置して
通電火災を防ぎましょう**
 ・感震ブレーカーとは、地震の揺れを感知して、自動的にブレーカーを遮断するもので、地震により倒れた電熱機器による出火等を防ぎます。
 ・また、夜間の照明確保のために、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

ブレーカー



移動式ホース格納箱

消火栓

4) 日頃から消火栓と移動式ホース格納箱の設置場所を確認しておきましょう。
 ・消火器では能力不足で、また消防車が近づけない火災に対して有効です。



茅ヶ崎市ホームページより抜粋

〔参考〕 防災情報の収集

（「茅ヶ崎市自主防災組織活動の手引き（平成30年4月版）」より抜粋）

●市の 防災情報の収集

1. 防災行政用無線

市では、地震や津波、気象等の防災情報を、防災行政用無線を通じて広報します。市ホームページ「防災行政用無線」

(1) 防災ラジオ（有償配布）

防災行政用無線で放送される緊急地震速報や大津波警報等の防災情報等をより確実に得ることができるようになります。

(2) ちがさきメール配信サービス（事前登録が必要）

防災行政用無線の放送内容などをメールで受け取ることができます。配信内容は、災害情報、ライフライン被害情報、茅ヶ崎警察署からの行方不明者情報など12項目から選択できます。

(3) 市ホームページ茅ヶ崎市情報サイト

防災行政用無線放送内容を市ホームページで確認できます。

(4) 災害情報案内テレドーム（電話案内サービス）

電話で放送内容を確認できます。0180-99-4591

(5) tvk（地上デジタル放送によるデータ文字放送）

○テレビ画面をテレビ神奈川（tvk：3チャンネル）にあわせ、テレビリモコンの「d」ボタンを押します。

○データ放送が表示され、画面左側の「マイタウン情報」を選択します。

○茅ヶ崎市のページが表示されます。画面右側の行政情報から、“防災・気象情報”または“くらしの情報”を選択してください。

2. 茅ヶ崎市防災情報サイト

地震・津波・台風情報のほか、天気予報・雨量情報も確認できます。携帯電話に登録し、日常から使用しておくくと便利です。

3. その他の防災情報アプリ

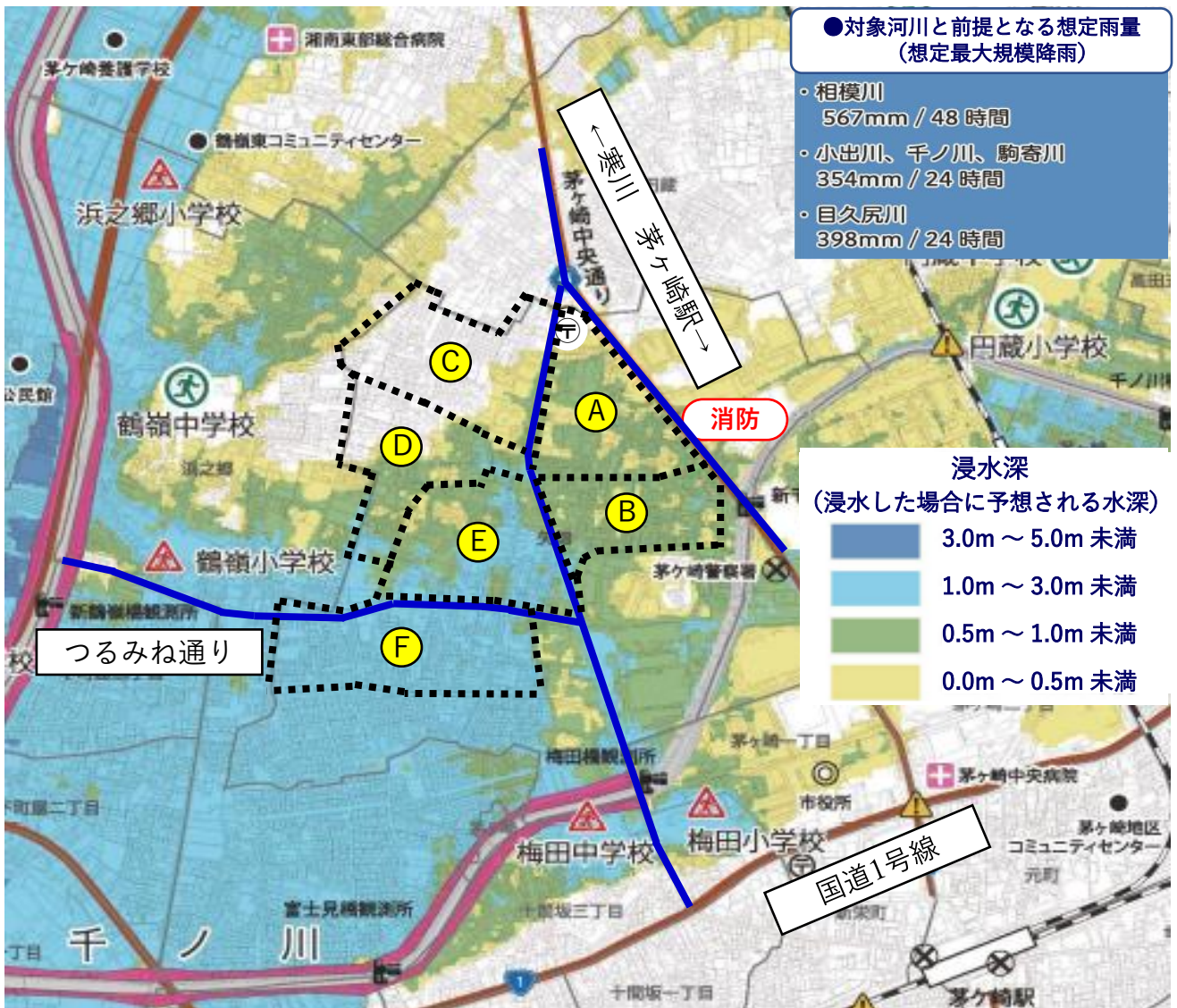
- ・NHKニュース防災
- ・Yahoo!防災速報

〔参考〕 矢畑地区洪水ハザードマップ

茅ヶ崎市洪水・土砂災害ハザードマップ（令和3年9月版）より抜粋

大雨における矢畑地区の浸水深さ

- ・ 矢畑地区の約90%が浸水します（C・D班の一部を除く）
- ・ 特にE班、F班は1～3m浸水する危険があります。
- ・ 避難所のうち鶴嶺中学校は浸水しませんが、鶴嶺小学校は浸水の危険があります。鶴嶺小学校へ避難する場合は早めの避難が必要です。

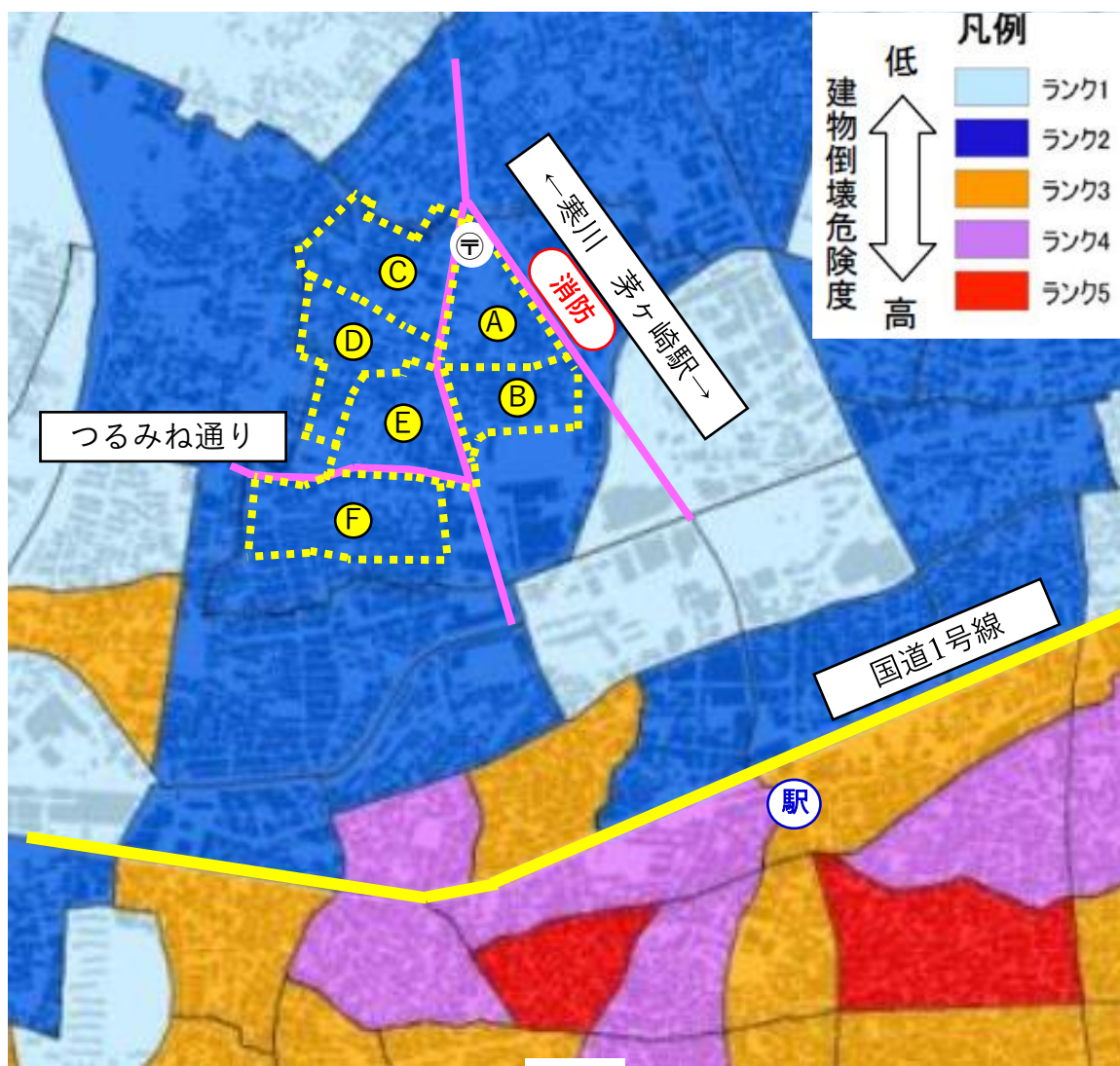


〔参考〕地震による矢畑地区危険度

平成25年度 検証結果 茅ヶ崎市ホームページより抜粋

1) 建物倒壊危険度

- ・地震の揺れ、地盤の液状化により、建物が倒壊する危険性を建物の構造、建築年代などのデータを用いて測定したものです。測定結果は、町丁目ごとに危険度を5つのランクに分けて、相対評価をしています。
- ・矢畑地区のリスクはランク2で、比較的低いとの結果です。



〔参考〕地震による矢畑地区危険度

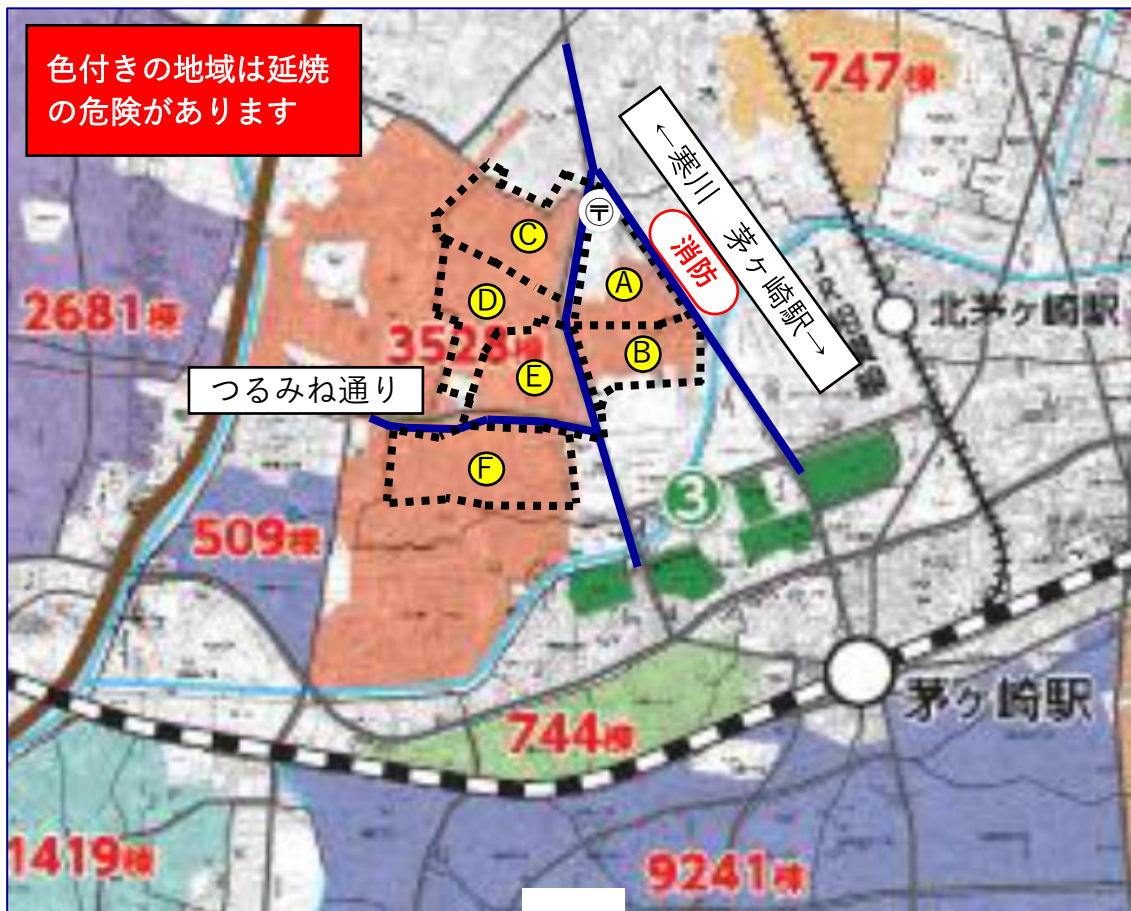
平成25年度 検証結果 茅ヶ崎市ホームページより抜粋

2) 火災危険度

- ・建物から出火し、延焼する危険性を測定したものです。測定結果は、クラスターという出火を放置した場合に最終的に焼失する建築群で表しています。
- ・建物の更新にかかわらず、道路を挟み裸木造が向かい合う箇所が点在し、引き続き延焼の危険性があります。
- ・矢畑地区ではA班からF班までいずれも延焼の危険があります。

⇒ 延焼の危険が発生したら広域避難場所に避難

- ・ 浜之郷小学校、養護学校、鶴が台小中学校、
円蔵小中学校、鶴嶺高校、中央公園、市役所、体育館

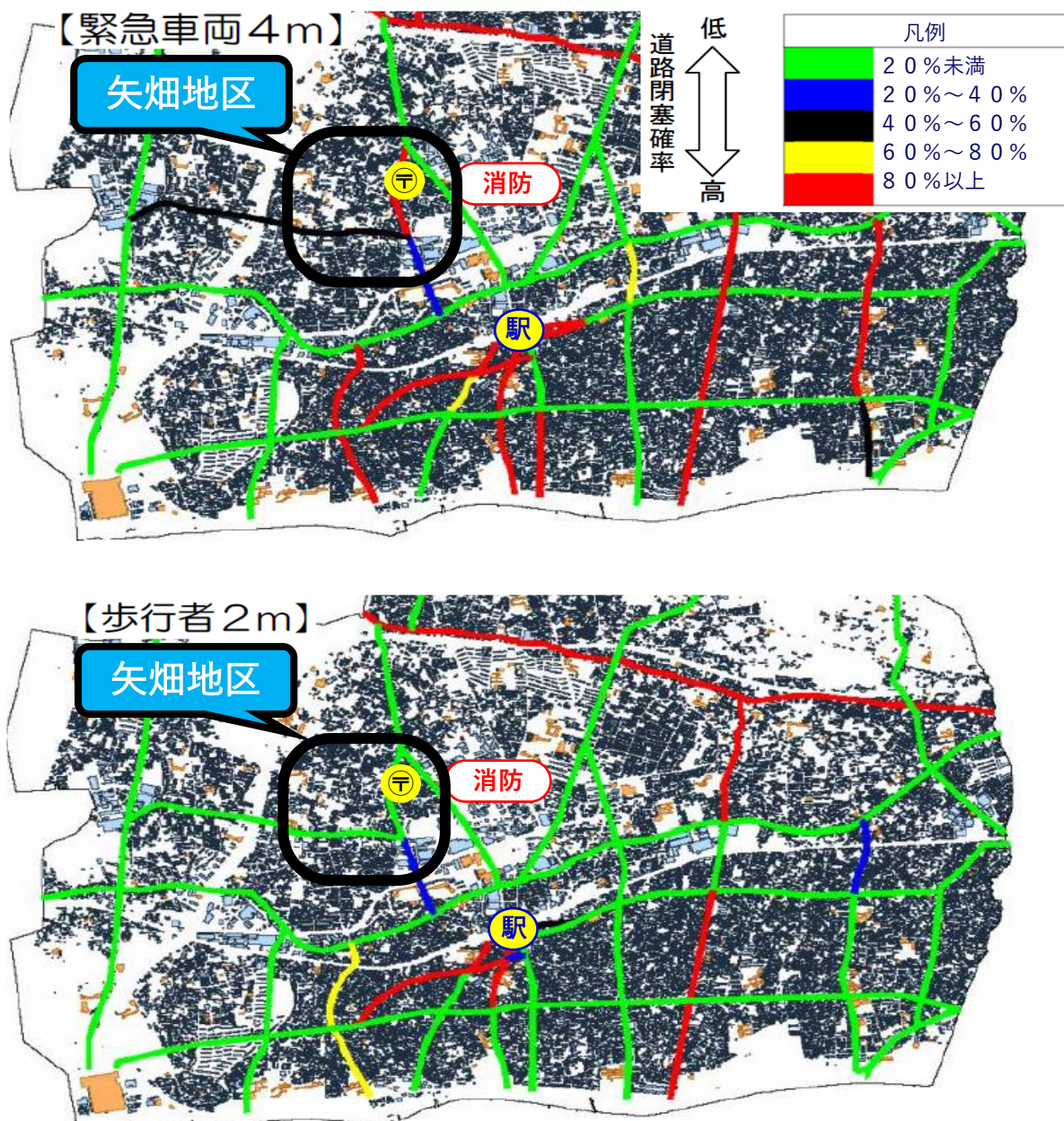


〔参考〕地震による矢畑地区危険度

平成25年度 検証結果 茅ヶ崎市ホームページより抜粋

3) 道路閉塞確率

- 沿道建物の倒壊により、道路が閉塞する危険性を測定したものです。（緊急車両・歩行者の場合）
- 矢畑郵便局前の通り、つるみね通りは緊急車両の通行が困難になると予想されます。**



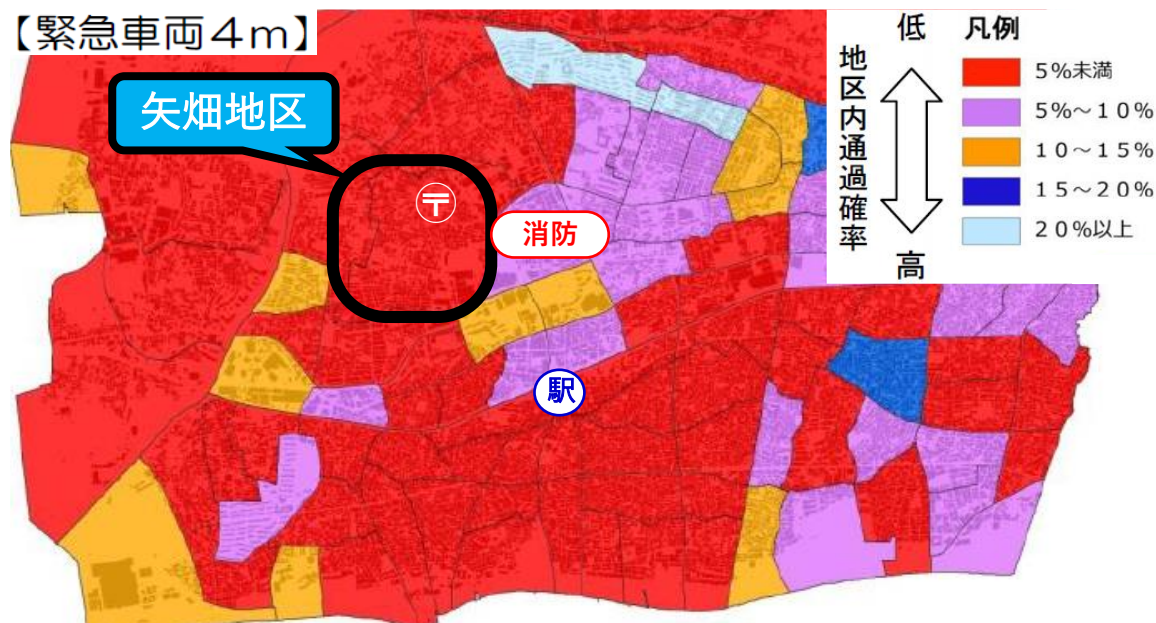
〔参考〕地震による矢畑地区危険度

平成25年度 検証結果 茅ヶ崎市ホームページより抜粋

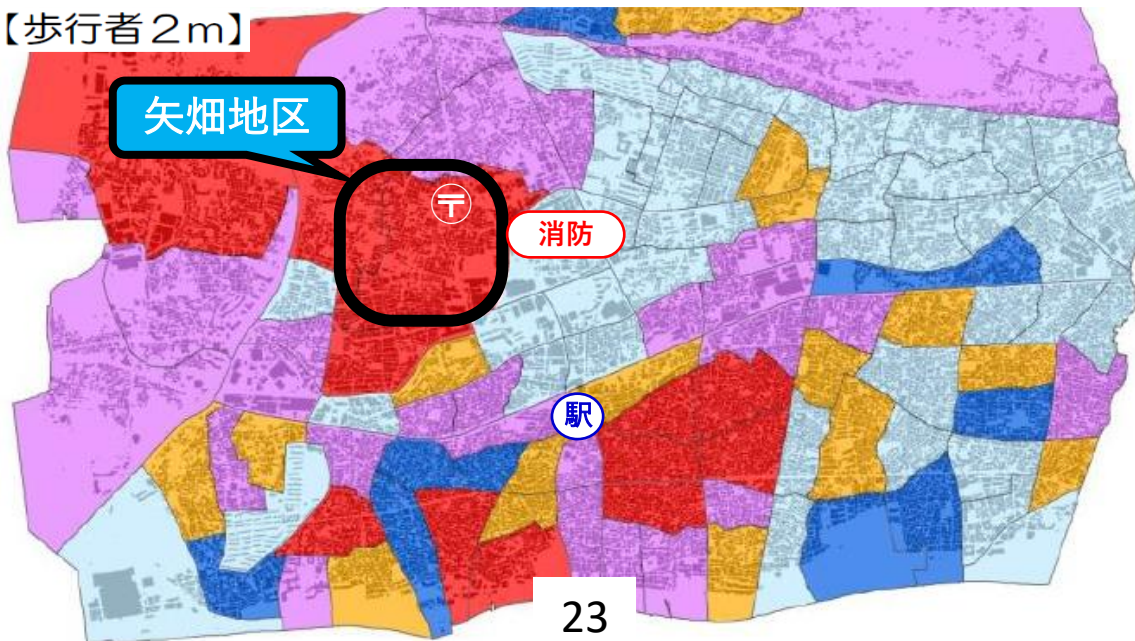
4) 地区内通過確率

- 地震発生後の、各町丁目の車両の移動・通過のしやすさ及び人の避難・通過のしやすさを測定しています。
- 矢畑地区は全域に渡って移動・通過がしにくくなると予想されます。

【緊急車両4m】



【歩行者2m】



〔参考〕津波による矢畑地区危険度

茅ヶ崎市津波ハザードマップ（平成24年6月発行）

- ・茅ヶ崎市津波ハザードマップによると、津波による浸水は海岸付近と相模川周辺のみで、矢畑地区に影響は無いとされています。（詳しくご覧になる場合は、茅ヶ崎市のホームページを参照下さい。）

茅ヶ崎市津波ハザードマップ

保存版



地震・津波はいつ、どこにいるときに発生するかわかりません。

「茅ヶ崎市津波ハザードマップ」は、発生頻度は低いものの、発生すれば茅ヶ崎市に甚大な被害をもたらすおそれがある津波を想定し、浸水すると予測される区域を示したうえで、津波一時退避場所や標高などの情報を加えたマップです。また、別冊の「茅ヶ崎市津波ハンドブック」は各家庭で避難先や避難経路を記入し、津波からの避難にそなえていただくための冊子です。

地震発生!!

地震（強い揺れ、長時間の揺れ）の対応

- ・落ち着いて身を守る
- ・火の始末
- ・出口の確保

津波警報発表

津波一時退避場所や避難所等への避難

揺れがおさまったら状況を確認し、すぐに津波一時退避場所や避難所、または標高が高い場所（高台）へ避難する。

津波情報を入手

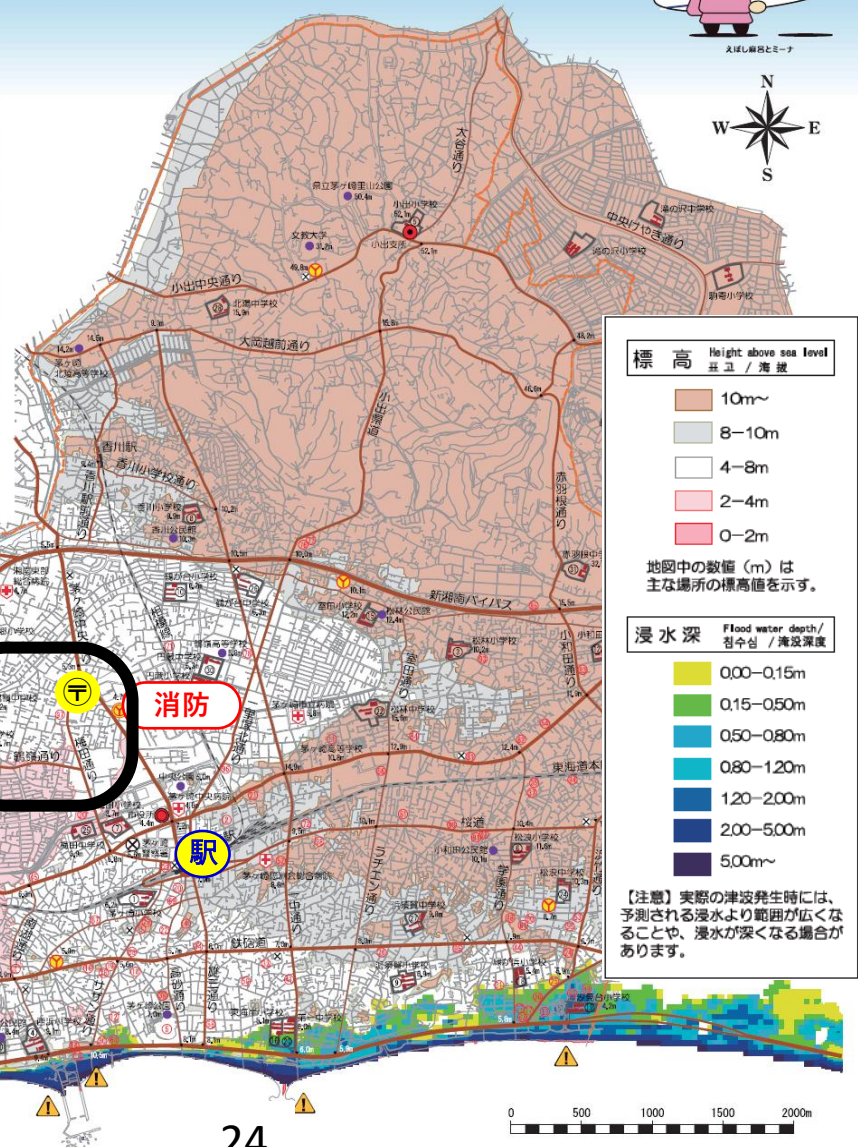
安全な場所で防災行政用無線、ラジオ、テレビ、携帯電話等から情報を入手する。

自宅または避難所へ移動

津波警報が解除されたら、一時退避した場所から自宅または避難所へ移動する。

自宅または避難所での生活

自宅や周辺が安全であれば、自宅で生活し、安全が確認できれば避難所で生活する。



矢畑地区

消防

駅

〔参考〕液状化による矢畑地区危険度

茅ヶ崎市液状化ハザードマップより抜粋（平成25年8月）

- ・「**液状化**」とは、強い地震の揺れにより地中の土の粒の安定が崩れ、地盤が泥水のような状態になることをいいます。**液状化が発生すると建物が沈下して傾き、居住が不可能になる等の被害が発生する危険性があります。**よって、事前に液状化による地盤沈下の影響を軽減させることが住宅の液状化軽減策になります。
- ・茅ヶ崎市液状化ハザードマップによると、**A班の一部とF班の液状化の可能性が大きい（ランク1）**とされています。**他の班も液状化の可能性はあります（ランク2）。**

